

## 旅行

私たちには、小さいころの思い出がありますが、たどっていくと、どこかで消えてしまっています。

思い出せる一番小さいころの年齢は何歳か、どんなことを書き出してもらうと、4歳が最も多くて、次が3歳。2歳、1歳、0歳のことを覚えていた人は、まずいませぬ。結果は3〜4歳ころからのことが、よく残るといふことになりました。

その内容を書いてもらうと、明るく楽しいことが多く、例えば「自転車に乗っている母の背におんぶされたときのぬくもり」(3歳)「父と海水浴へ行って、帰りに屋上で乗り物に乗った」(4歳)、などがありました。子どもにとつて身近な父母の登場する場面が多いようです。叱られたり、



怖かったりもあるけれど、楽しい思い出より少数でした。

場面が変わって昔、育児雑誌社主催の「赤ちゃん連れのハワイ旅行」がありました。0歳、1歳児が対象で私も同行しました。働き盛りの父親は、普段の育児は母親にお任せのようで、このときとばかりわが子を独り占めです。慣れない抱っこや授乳でくたびれていましたが、楽しそうでした。

3日目になって、ある赤ちゃんの体が熱いというので測ると37度ほどありました。父親は体温計の目盛りで一喜一憂ですが、母親は「機嫌はいいしよく飲むので心配ない」と平気でした。結局は、海には行かずに部屋に閉じこもり遊んでいました。

2日間で熱も落ち着いたので、父親はほっとして初めて海岸を散歩してきました。そして翌日帰国でした。

結局親子3人のハワイ旅行で父親は砂浜を1回散歩しただけ。その後の手紙では「ハワイではずいぶん心配して父親になりました。思い出に残る楽しい旅行でした」と。7月、8月は子どもとの楽しい思い出をたくさん残しましょう。

## 耳鳴りの原因

耳鳴りがあると「キーン」とか「ザー」といった不快な音が聞こえます。耳鳴りが起こる詳しい仕組みはよく分かってはいませんが、耳そのものの他に、脳を含めた中枢の異常によって起こるのではないかとされています。耳鳴りを起こす代表的な病気には、次のようなものがあります。

一つは「耳あかの詰まり」で、なんらかの理由で多量の耳あかが外耳道をふさぐようにたまるると、耳鳴りが起こることがあります。

二つは「中耳炎」です。細菌感染などが原因で中耳に炎症が起こるときです。

三つは「加齢性難聴」です。年を取って音が聞こえにくくなってきましたが、耳鳴りを伴うことが多いです。

四つは「突発性難聴」です。これは片側の耳に急に難聴が起こる病気で、耳鳴りも起こります。原因はよく分かかっていませんが、内耳や聴神経になんらかの障害が起こっていると考えられています。

五つは「聴神経腫瘍」です。耳鳴りがきっかけとなって聴

神経にできた腫瘍が発見されることがあります。他にも、「脳梗塞」や「脳出血」が生じたことによつて、耳鳴りが起こることがあります。

耳鳴りの8〜9割には、難聴が伴います。例えば中耳炎や突発性難聴の場合などは、早期に治療を受ければ、多くの場合、難聴とともに耳鳴りも改善します。

耳鳴りがあつて、「鳴り続ける」「耳がふさがる感じがする」「会話や音が聞き取りにくい」などの場合には、早めに耳鼻咽喉科を受診し、原因に応じた治療を受けてください。

